

令和2年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 8	公益目的事業 17
主査名	小早川悟 日本大学教授	
研究テーマ	貨物車の駐車実態に基づいた荷さばき駐車スペース確保のための分析**	
研究の目的： <p>わが国の都市では荷さばきを行う貨物車が利用可能な建物内の駐車施設が不足しており、その駐車需要を補うために荷さばき貨物車向けの路上駐車施設を運用する必要がある。これまでも時間制限駐車区間やローディングベイといった様々な形で荷さばき貨物車が利用可能な路上駐車施設が運用されている。そこで、本プロジェクトでは、異なる運用の路上駐車施設の駐車実態を分析することで、荷さばき車両に対する駐車施設の運用として適しているものを把握することを目的とした。</p>		
研究の経過（4月～3月）： <p>当初は、異なる場所での路上駐車実態調査を実施する予定であったが、コロナ禍での対応が必要となり、実態調査を実施することが困難な状況になった。そこで、研究方針を再検討し、研究メンバーがこれまで実施してきた過去の路上駐車実態調査のデータをもとに分析を行うこととした。</p> <p>具体的には、貨物車の路上駐車実態が、設置されている路上駐車施設毎にどのように異なるのかを分析し、貨物車にとってどのような路上駐車施設を整備していくのが好ましいかを検討することにした。今回は、東京都港区新橋に設置された20分無料ベイ、東京都新宿区代々木に設置された20分まで無料の白線枠、東京都渋谷区渋谷に設置された20分間の貨物車用パーキングチケット、東京都渋谷区宇田川町に設置された5分間無料のローディングベイの4か所を対象として分析を行った。</p>		
研究の成果（自己評価含む）： <p>分析結果より、無料で20分までの駐車を認める路上駐車区画は、ローディングベイおよび白線枠のいずれの場合でも、荷さばき貨物車の80%近くがルールを守って利用していることが明らかとなった。一方で、パーキングチケットや5分間まで無料のローディングベイは法的規制でありながらも荷さばき貨物車のルール内駐車の割合が低いことがわかった。このように異なる路上駐車施設の貨物車の路上駐車実態を比較分析することで、荷さばき車両のための路上駐車施設として好ましい形態を明らかにできたと考える。</p>		
今後の課題： <p>今後は、ルール外駐車車両に対する対応策の検討や、荷さばき貨物車が路上駐車施設をより利用しやすい環境を整備していく必要があるものと考えている。</p>		